

「未来の担い手育成プログラム研究指定校」事業報告書（3年次）

1 学校名等

学 校 名	向日市立 西ノ岡中学校				校長名	實川 明彦
研 究 主 題	生涯にわたり学び続ける生徒の育成 ～他者と協働して課題解決に挑む～					
研究の目的	課題解決型の学習を通して「自ら課題を解決する姿勢」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」を育成し、資質・能力の向上を目指す。					
学 年	1 年	2 年	3 年	特別支援	合 計	教職員数 ※校長・教頭を含む
学 級 数	4	3	3	3	13	30
生 徒 数	125	118	110	14	367	※校長・教頭を含む

2 研究校の概要

本校は、ここ数年、不登校や人間関係のトラブル、配慮を要する生徒への対応が多岐にわたっている。この課題を解決するためにも、すべての教育活動を通して生徒の居場所づくり、あたたかな人間関係づくりの視点が欠かせないものとなっている。そして、仲間とともに協力して課題を乗り越えられた経験が自信となって、未知の世界へのさらなる一步を踏み出す原動力につながると考える。

2年次の成果として次のことが挙げられる。チャレンジコンテストなどの取組を通して、「課題解決型の学習」が総合的な学習の時間だけでなく、普段の各教科にも浸透しつつあること、そして、「京都府学力・学習状況調査」の生徒質問紙のうち「主体的・対話的で深い学び」の経験についての質問項目を取り上げ、調査を実施したところ、70%を超える肯定的な回答があったことである。

3年次では、一層学校全体の取組となるよう研究体制を見直し（図1）、「課題解決型の学習」を各教科等へ取り入れ、生徒の学力向上を図るとともに、「京都府学力・学習状況調査」の結果を教育活動に活用できるよう、分析及び研究をすすめ、生徒一人一人の認知能力の伸びや非認知能力の変容を捉え、より効果的に生徒の資質・能力の育成につなげる方策を検討してきた。

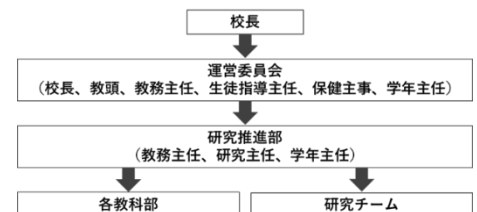


図1 研究体制

3 主な研究活動

(1) 1学期

【主な学習活動】	■課題について考える。（2時間＋α）	授業改善に向けた校内研修等
・オリエンテーション【1時間】（4月） アイスブレイクを通して他者と協働する大切さを体験するとともに、美濃吉から提示された課題の解決に向けた今後の活動への見通しをもつ。		・校内研修（4月） ICT活用に向けた実践交流
・国語：プレゼンテーション（6～7月） 「和食」について情報収集し、自分たちが考える「和食」や「和食文化」について、プレゼンテーションソフトを用いて整理し、発表する。		・校内研修（5月） 「主体」を引き出す工夫（しかけ）の交流
・夏休み課題（8月） 「新しい和食の在り方を創造し、和食文化を広めよう」について、根拠となるデータ等を収集し、示しながら自分の提案をまとめる。		・校内研修（6月） 授業構想シートの検討
・提案の交流【1時間】（8月） 夏休みの課題で考えた提案を交流し、良い点や改善点について助言し合う。		・指導主事訪問（7月） 「主体」へのしかけ

(2) 2 学期

【主な学習活動】	■提案に必要な知識の獲得とともに客観的な視点を取り入れる。(9回+8時間)	授業改善に向けた校内研修等
・週末課題【9回】(9～10月) 文化庁のWebページに掲載されている和食文化に精通した方々のインタビューやNHK for Schoolの「アクティブ10 プロのプロセス」等動画を各週末に視聴し、課題解決に向けた自分の考えを蓄積する。		・校内研修(10月) 各チームで「主体」へのしかけについて授業交流
・美濃吉社長による講演【1時間】(11月) 納得のいく、説得力のある提案を目指し、美濃吉が課題に込める「想い」や「和食・和食文化」等について学ぶ。		
・プレゼンテーション動画の考察【1時間】(11月) YouTubeで公開されているプレゼンテーションについての動画を視聴し、プレゼンテーションに必要な技術や提案の構成について考える。		
・提案の交流とアンケート項目の作成【1時間】(11月) これまで個人で考えてきた提案について、班で交流し、互いに評価する。「和食に対する考え方」、「日常生活での和食の実態」、「提案内容の是非に関わる内容」等を調査するためのアンケート項目を検討し、2年生を対象にアンケートを実施する。		・各チームでの授業交流(2学期中)
・チーム分け【1時間】(11月) 「1チーム4～5名程度」「男女混合」という条件を提示し、チームで課題を解決するための提案を醸成していくにあたり、考えが近い者同士で集まるなど、どのようにチームを作るのが適切かを考え、自分たちでチーム分けを行う。		■各教科の実践例 【国語】 ・Teamsで調べたことを投稿(共有)し、投稿による対話を通して自分の考えを深める活動 ・教科書の内容を自分なりにまとめ、他者に伝わるようにアウトプットの方法を見合い、推敲し合う活動
・思考ツールによる提案内容の整理【2時間】(11月) これまで個人での活動を中心に進めてきた。チームとしての提案にしていくために、思考ツールを用いて自他の提案を比較し、共通点や違い、新たな視点等を整理し、新たな提案へ昇華する。また、アンケート結果も活用し、提案の具体化も考える。		
・中間発表に向けて完成度確認【1時間】(11月) 完成度60%を目指し、準備を進める。教師が各チームの提案内容やその伝え方等を確認し、中間発表に向けた助言を行う。		【数学】 ・単元の目標達成に向け、自分で内容のまとまりごとに数時間の学習計画を立て、活動日の自身の目標にあった学習形態を選択し、学習を進める。毎授業の終わりには、Teamsに保存している各自の振り返りシートを入力し、次の活動目標を設定するといった学習のサイクルを意識した活動
・中間発表【1時間】(11月) 本プログラムを昨年度経験している3年生にプレゼンテーションを行い、「話の流れ」「2年生が気づいていない提案のよさや課題」「スライドデザイン」「パフォーマンス」等に助言をもらうことで提案の修正・調整につなげる。		
【主な学習活動】	■自他の提案を振り返り自己の成長と学び続ける大切さについて考える。(6.5時間)	
・提案の修正【1時間】(11月) 各チーム3年生からの評価・助言を確認し、提案の方向性を修正するとともに、論理性に欠ける部分や提案の実現性とその影響等について調整を行う。		【英語】 ・知識を活用し、ペアで表現を吟味し、豊かな表現力をつける活動
・アンケート項目の作成【1時間】(11月) 仕上げに向け、再度課題「新しい和食の在り方を創造し、和食文化を広めてください」に立ち返り、各チームが考える「新しい和食」、「和食文化」の意味づけを大切にする。その上で、新たに確認・検証したい内容について、対象を全校生徒、教職員、保護者に広げアンケートを実施する。		・自分たちで調査したいことを決め、アンケートを実施し、結果をもとに比較級を用いてプレゼンテーションを行う活動
・提案の展開を工夫【1時間】(12月) 聞き手にとってわかりやすい話の展開や各話題で聞き手にどう思ってもらいたいかを考え、スライドの構成や原稿を調整する。		
・アンケート結果を踏まえた内容の調整【1時間】(12月) 提案に向けた問題提起、提案に説得力を出すための根拠等にアンケート結果を活用することで、提案に深みを出す。		
・提案内容の調整と学級内発表【1時間】(12月) 学級内発表に向け、提案内容の最終調整を行う。前半チームが発表する。聞き手は、質問と評価を行う。		

【主な学習活動】	■ 自他の提案を振り返り自己の成長と学び続ける大切さについて考える。(6.5 時間)	授業改善に向けた校内研修等
・ 学級内発表（学級代表チームの選出）【1 時間】(12 月) 後半チームが発表する。聞き手は、質問と評価を行う。		・ 各チームでの授業交流 (2 学期中)
・ 振り返り【0.5 時間】(12 月) 取り組み方やチームメンバーとの協働等の課題解決型の学習への取り組む姿勢、そして、自己の生き方に学習をどのように生かすのかを振り返る。		

(3) 3 学期

【主な学習活動】	授業改善に向けた校内研修等
・ 各学級代表チームで内容調整（冬休み期間）	・ 校内研修（1 月） 主体性を引き出す仕掛け
・ 「きょうと明日へのチャレンジコンテスト」（2 月）	・ 学校公開（1 月） 向日市内小中学校に向け、1 年生の授業公開・研究協議
・ 本校生徒に向けた学校代表チームのプレゼンテーション 3 年生：コンテストの動画視聴（2 月）、1 年生：発表と質疑応答（3 月）	・ 校内研修（2 月） 今年度の実践を交流

4 今年度の研究の成果と検証

(1) 総合的な学習の時間の取組について

本年度は、各教科の授業と総合的な学習の時間の学びをつなげることを意識した。特に本校では『主体』を引き出す工夫（しかけ）」をキーワードに授業改善を図っている。そのため、1 学期は生徒が各教科の視点や考え方を学ぶとともに、様々な学び方や学習形態を経験できるよう実践に臨んだ。

1 学期はテーマを知り、各自が設定する課題の解決に向け、生徒が知識を蓄えることや学び方を知る期間、2 学期は週末の時間を利用し動画教材により知識をさらに蓄えること、3 年生から助言をもらうこと、生徒・教職員・保護者に向けアンケートを実施することなど、他者の考えに触れながら提案を醸成する期間として設定した。(図 2) そのことで、教員同士で「課題解決型の学習」について話し合いを重ねながら生徒の学習への関わり方（支援の仕方）等、時間をかけて考えることができた。

その結果、課題の解決に向けて、「粘り強さ」「自分から取り組む姿勢」「チームでの関わり」についていずれも 80%を超える肯定的な回答があった。(図 3) また、本プログラムの取組を通して、大切にしたいこととして生徒から「メンバーと熱量が同じになること」「自分の意見を持つことも大切だけど、他のいろんな人の意見を大切にして、他の人の意見を参考に自分の意見をさらに深めること。」とあたたかな人間関係づくりに関わる意見が挙がった。

しかしながら、「検証」という部分では、難しさを感じる生徒が多く、「検証」の機会をどのように設定し、指導していくか改善が必要である。(図 3)



図 2 研究通信

	課題の解決に向けて、粘り強く取り組むことができましたか。	課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができましたか。	課題の解決に向けて、自分で情報を集め、整理することができましたか。	課題の解決に向けて、提案を様々な視点で見直し、修正・再調整することができましたか。	課題の解決に向けて、アンケート等のデータを活用することができましたか。	課題の解決に向けて、実験や検証をすることができましたか。
肯定的な回答	87%	87%	88%	82%	89%	75%
否定的な回答	13%	13%	11%	18%	11%	25%
	提案を繰り返す中で、ICTを効果的に活用できましたか。	授業時間以外に、提案に必要な情報の収集、考えの整理等、提案に向け活動しましたか。	チームメンバーに、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して伝えることができていましたか。	チームメンバーと話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができましたか。	チームメンバーの考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めましたか。	発表では、聞き手を意識したパフォーマンスを行うことができましたか。
肯定的な回答	80%	83%	81%	87%	90%	83%
否定的な回答	20%	17%	19%	13%	10%	17%

図 3 本校で実施した「課題解決型の学習」についてのアンケート結果①

(2) 令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の質問紙を活用した調査について

本校は生徒の話合い活動を伴う課題解決型の学習を取り入れた授業の研究をすすめており、生徒の実態を把握し、授業改善の参考とするために、京都府学力・学習状況調査が実施されたので、質問紙における主体的・対話的で深い学びの経験についての質問項目である「①振り返り」「②課題解決型の学習」「③調べたり聞いたりする機会」「④知識を結び付けたり関連付けたりする機会」「⑤工夫して発表する機会」「⑥グループで話し合う機会」に関する質問を取り上げ、すべての教科において、7月及び12月に調査を実施した。

次の図4を見ると、各教科内ではほとんどの項目が70%以上であり、特に国語科では②③④⑤⑥、数学科では①②④⑤⑥、英語科では④⑤⑥の項目で80%を超える結果となった。また、全教科の合算値をみると、①②④⑥の項目では70%を超えており、総合的な学習の時間を中心として取り組んできた課題解決型の学習のプロセスが、各教科の授業にも浸透していると考えられる。

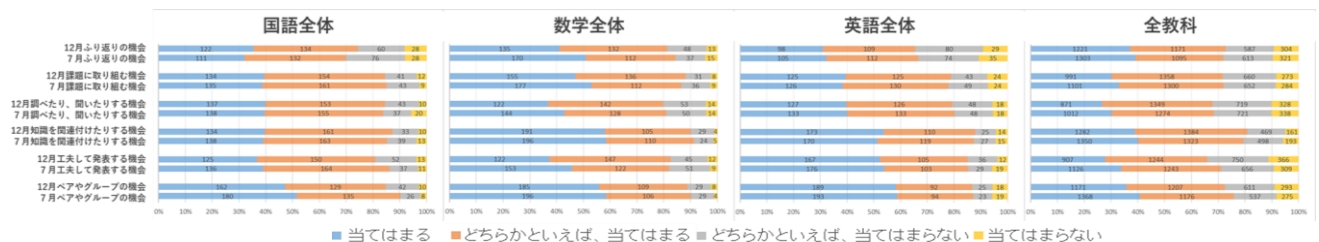


図4 令和6年度京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～の質問紙を活用した調査

5 今年度の課題

本プログラムの取組を通して、難しいと感じたこととして「A：時間が短い」「B：質問が来たらどう答えるか考える」ことを挙げている生徒がいた。

1学期は「何をするの」という声がよく聞かれたが、2学期から学習が進むにつれ「時間がない」という声が増えた。特に、中間発表の前後から提案に向け考えを深める時間やプレゼンテーションを形にしていく時間、吟味する時間などに対し、生徒から焦りを感じるようになった。「A」について知識をどのように習得させ、どれだけ早く自分事として捉えさせることができるかが課題として考えられる。

また、自分たちの提案に対しての質問であるにも関わらず、返答ができないチームが多々あった。インターネット等から調べたり、チームで話し合ったり、大人や経験者から助言をもらったり、アンケートにより調査したりし、自分たちの提案を論立ててきた。一見、現実的に考えてきた提案であっても、先に述べたように「検証」の機会が適切に設定できなかったため、自分たちの「経験」をもとにした筋の通った返答ができないことが「B」のような難しさを感じさせたと考える。

6 研究成果の活用について

「課題解決型の学習」に取り組んだことで浸透した学習環境や授業改善の視点を生かし、生徒が「課題解決型の学習」で学んだことを発揮する場面を各教科の授業にも適時に設定する(図5)など、教師の実践力の向上を図るとともに、生徒の「自ら課題を解決する能力」や「自主的、自律的、計画的に学習に取り組む力」についても向上を図る。そのためにも、「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」を活用し、認知能力と非認知能力を一体的にはぐくむ研究を進める。また、引き続き「よりよい集団づくり」と「話し合い活動の充実」を柱とした授業改善を図る取組を進め、生徒の学力向上を目指す。

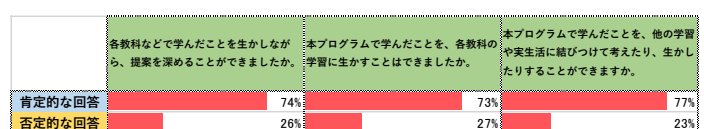


図5 本校で実施した「課題解決型の学習」についてのアンケート結果②